

自殺考

目次

- 1…はじめに
- 2…自殺とは
- 3…自殺の歴史
- 4…自殺の現状
- 5…自殺の原因
- 6…関連概念・語句
- 8…自殺対策
- 9…世界の自殺事情
- 10…自殺と倫理
- 11…議論の進め方

1…はじめに

死というものは望むと望まざるとに関わらず全ての生命体に等しく訪れるものである。しかし中にはその到来を待てずに自分から取りに行くせっかちさんが毎年 3 万人ほど日本にはいる。いわゆる「自殺」である。自ら命を絶った人々はこういった理由で死を選んだのか、それは社会的に見過ごすべきことなのか、そもそも、生への欲求を備えていて然るべき生命体が、そのような行為に踏み切ること自体許されるものなのか、思索すべき事柄は尽きない。記念すべき平成 23 年度初の SPD においてなぜこんな陰鬱とした話題を選んだのか、疑問を抱いておられる方も多かろう。しかし生物とはその名の通り生きることを常に主眼に据えるものである。人類とて例外ではない。にも関わらず、毎年数多くの方が自ら命を絶つという現状は実に珍奇なことである。故に題材として扱うに値すると考えた。自殺の是非はここでは定めない。自分の考えを持ってほしい。そしてその考えに準拠した上で、社会全体で「自殺」に対してどう接するべきなのかを提示してほしい。

2…自殺とは

自殺とは文字通り自らの手でその命を絶つことである。日本語に「死」を示す表現は多々あるが、「自殺」の同義語も負けず劣らず多い(自決、自刃、玉砕など)。日本人が「死」に対して関心があることの一種の表れとも言える。死に至らなかった場合は**自殺未遂**と呼ぶ。

様々な「死」

永眠 往生 急逝 散華 死去 死亡 昇天 逝去 絶息 早世 他界 物故 崩御 夭折
お隠れになる 帰らぬ人となる 事切れる 天に召される 身罷る 世を去る 世を辞す

3…自殺の歴史

- ・日本において自殺は文化の一つとして扱われている (Ex.切腹、殉死、特攻)
 - ・上記のものを含め美談として捉えられやすい
 - ・戦前戦中の自殺率は低い
- 戦後は上昇に転ずる
- 高度経済成長期には再び減少
- 石油危機の際に増加
- バブル経済期には減少
- 崩壊後に急激に上昇
- 今日に至るまで増加の一途を辿る

自殺した主な歴史上の人物

- ・芥川龍之介…作家。1927年7月24日に自室で服毒自殺
- ・阿南惟幾…陸軍大将。1945年8月15日にポツダム宣言の受諾返電の直前に陸相官邸前で割腹自殺
- ・川端康成…ノーベル文学賞受賞作家。1972年4月16日に自室でガス自殺
- ・近衛文麿…元総理大臣。1945年12月16日に荻外荘で服毒自殺
- ・太宰治…作家。1948年6月13日に玉川上水で入水
- ・乃木希典…陸軍大将。1912年9月13日に妻と共に自刃(殉死)
- ・三島由紀夫…作家。1970年11月25日に自衛隊の決起を呼びかけたのち割腹自殺

4…自殺の現状

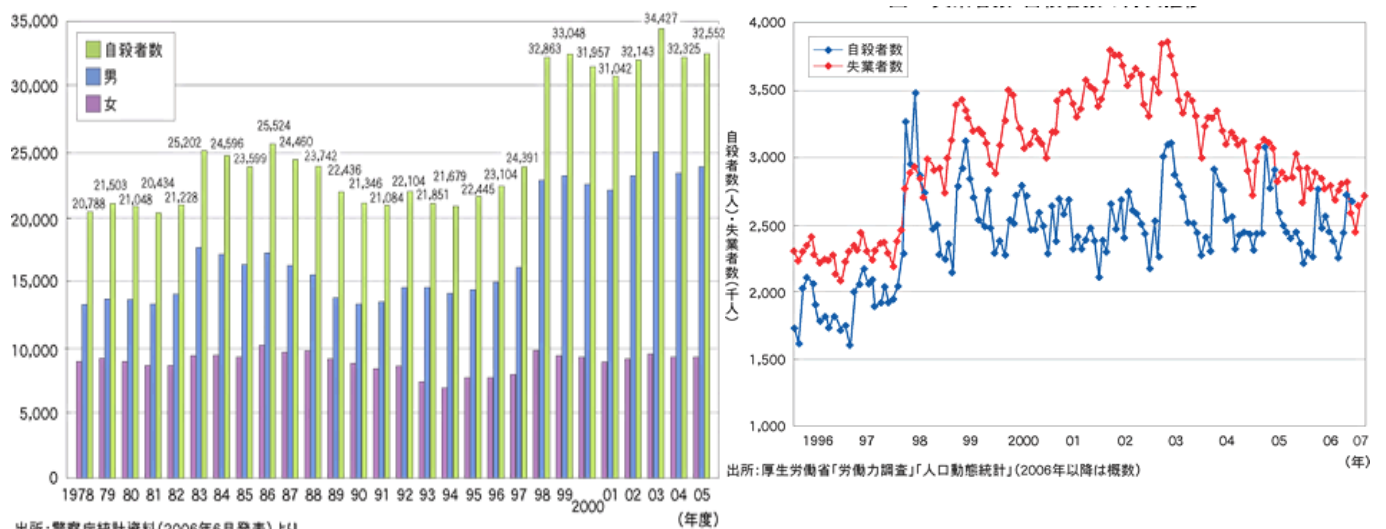
自殺者数

- ・2010年は**31690**人が自殺 (1日あたり86.8人、1時間あたり3.58人、16分と45秒で1人死亡)
 - ・98年以後3万人を越え続けている
- 98年は北海道拓殖銀行や山一証券の破綻、GDPマイナス成長、失業率4%越えなど社会情勢の不安定さに拍車がかかった時期
- ・自殺未遂者は自殺者の**10倍**と推計
 - ・自殺者遺族は**300万人**にのぼるとされる

自殺率

自殺率は【自殺者数/10万(単位は人)】という式で表される

- ・2010年における自殺率は**24.9**
- ・総じて経済的要因と連動して上下する傾向にある
- ・G8諸国、OECD加盟国の中で日本の自殺率は共に1位
- ・世界的に見ると**6位**(上位は全て社会主義国家)
- ・日本における死者の死因全体の**2.8%**は自殺によるもの(全体で6番目)

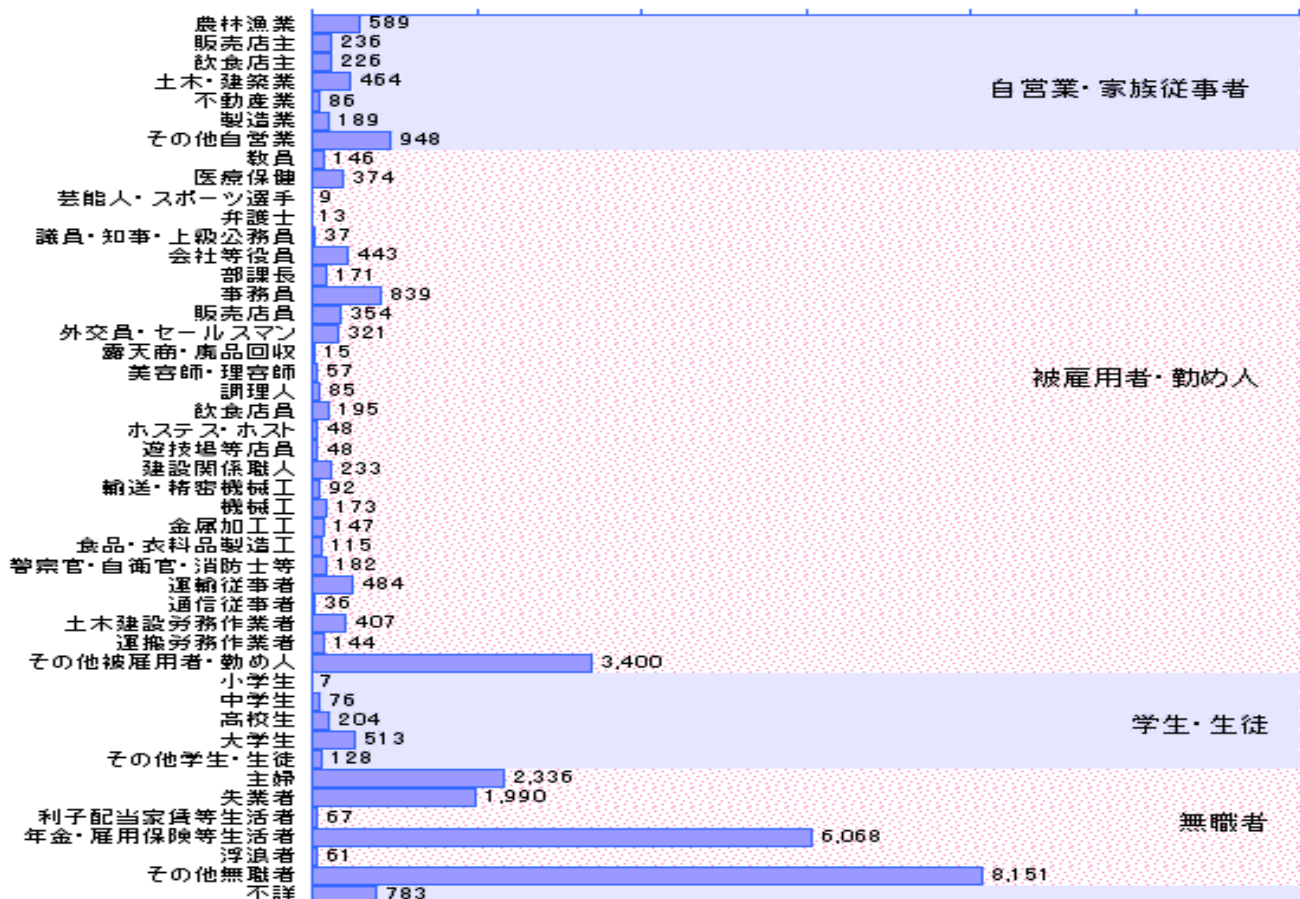
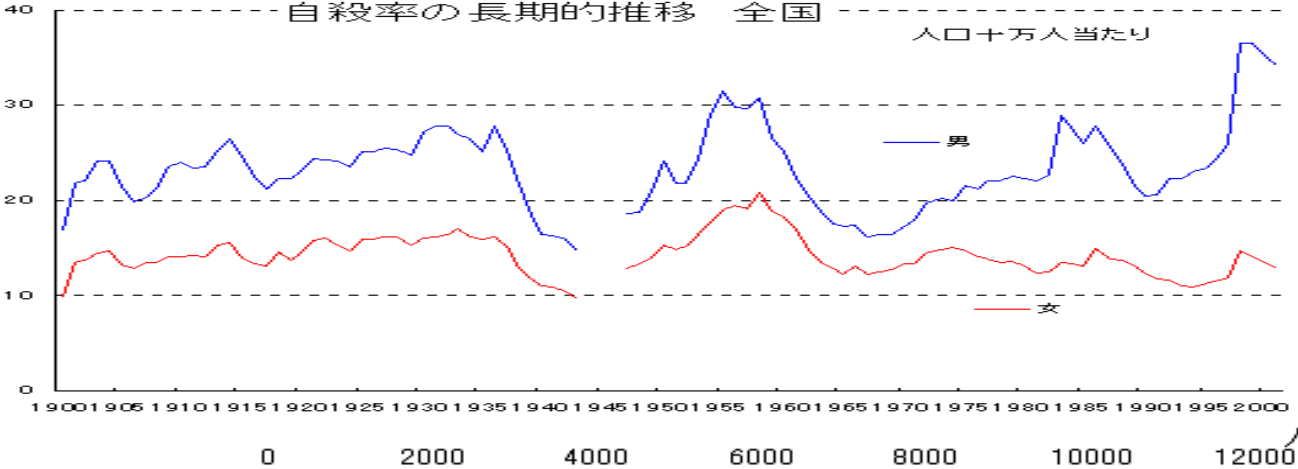


出所: 警察庁統計資料(2006年6月発表)上4

人/十万人

自殺率の長期的推移 全国

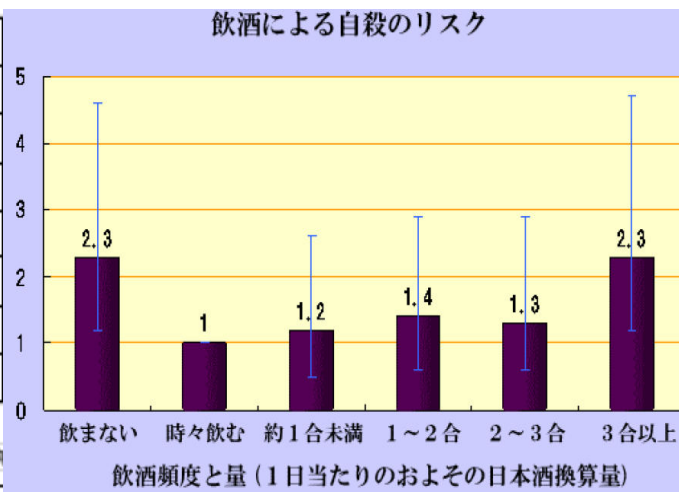
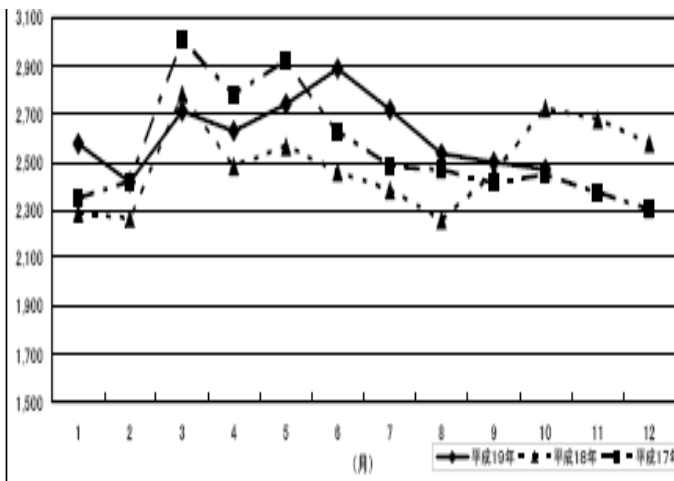
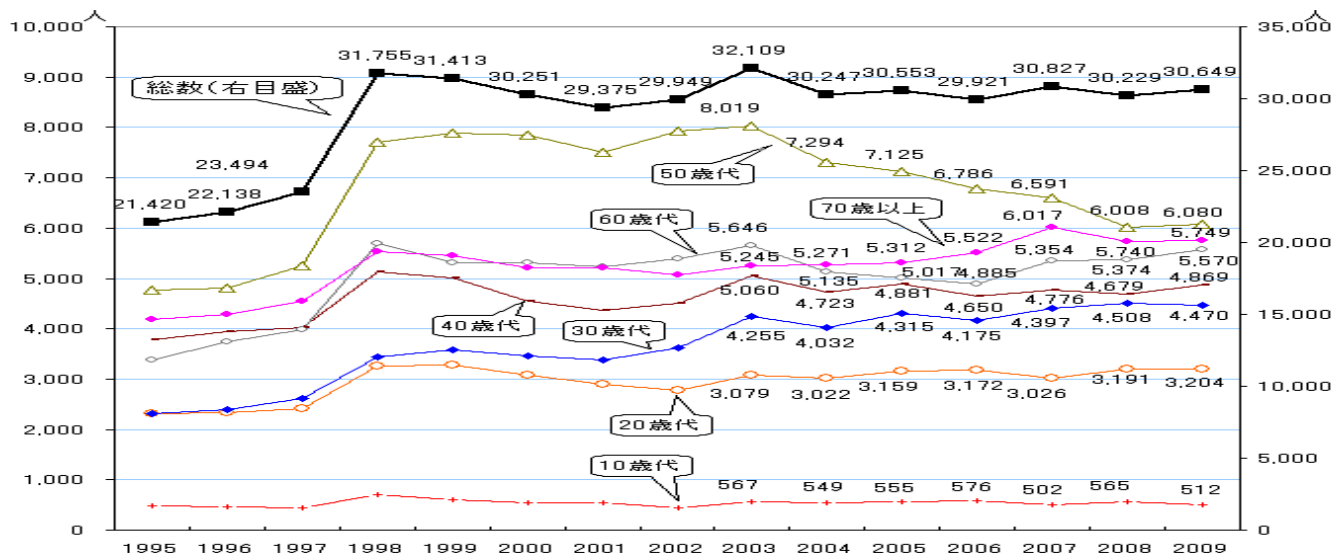
人口十万人当たり



自殺者の特徴

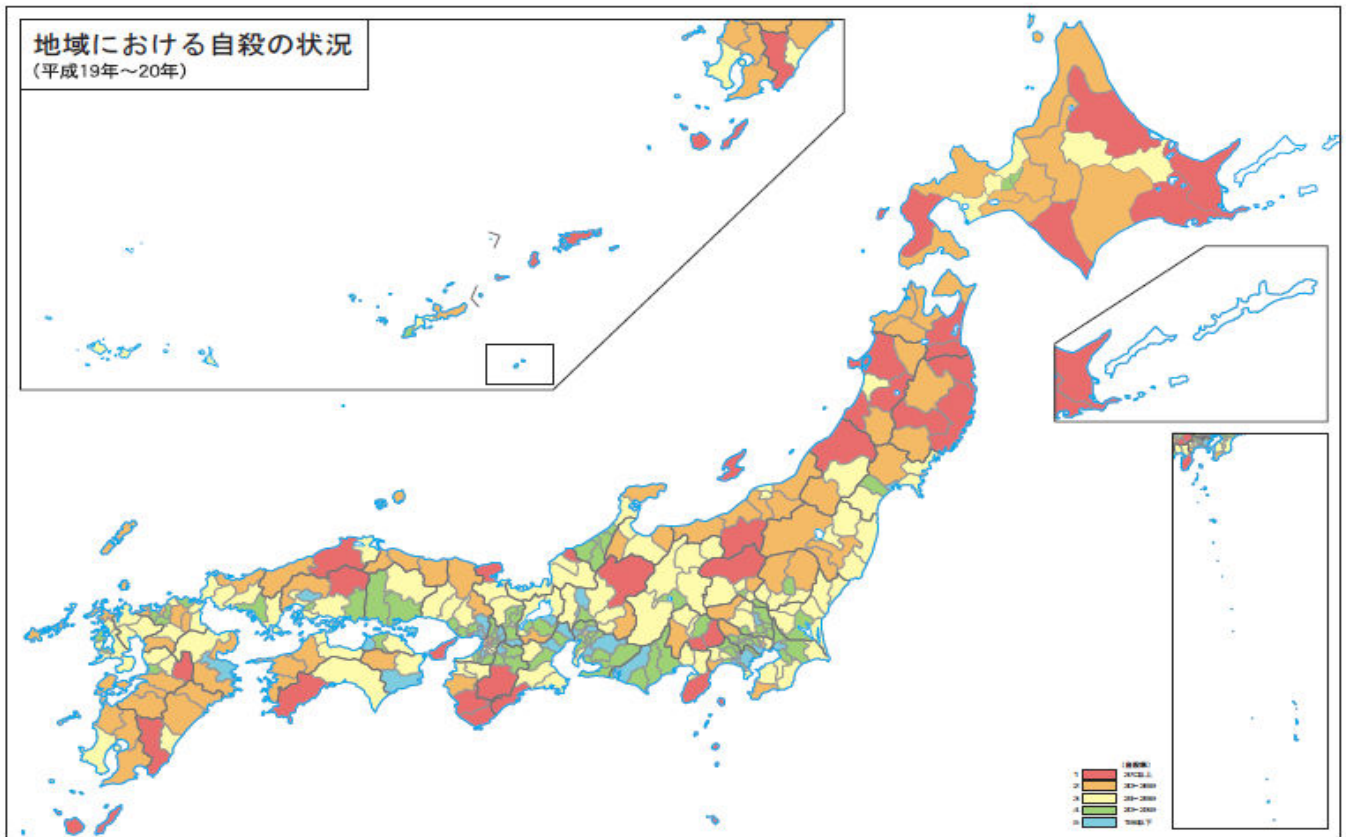
自殺者に関する統計からは以下のようなことが言われている

- ・男性は女性より自殺しやすい
- 離別・失業による自殺の自殺率は男女で **6倍** 近い開きがある
- 曜日別に見て自殺者数が最も多いのは月曜日だが、女性にはこの傾向は見られない
- しかし「自殺したいと思ったことがあるか」という問いに対しては女性の方が男性より「思ったことがある」と答えている(女性 21.9% 男性 16.3%)
- 未遂者も女性の方が多い
- ・50歳代が最も自殺しやすい(ほか、20歳代の死亡原因では自殺が1位)
- ・喫煙者は自殺しやすい
- 高知大学の調査で自殺者は他の志望者に比べ血中のニコチン濃度が **3.5倍** 近い数値をとっている
- 一日の喫煙本数が20本未満の人を1とした場合、30本以上40本未満、40本以上の人はそれぞれ自殺率が **1.4**、**1.7** となっている
- ・お酒については「時々飲む」人の自殺率が最も低い
- ・**30%**の人に自殺未遂経験あり
- ・**72%**の人は自殺前に相談に行っている(精神科など)
- ・月別では**3月**が最も多い
- ・時間帯では**午前5~6時**が最も多い



地域別に見た自殺

- ・ 人数は東京都が最も多い
 - ・ 2010年の統計においては山梨県が **41.6** と最大の自殺率を有している
- 青木ヶ原樹海(自殺の名所)の存在も少なからず影響している
- 2006年では秋田県が **43.5** で最も高かったが、自殺防止への取り組みをした結果3位まで落とした
- ・ 総じて山間部の自殺率が高い傾向にある
 - ・ 県内総生産と自殺率は反比例の関係にある



自殺の類型

デュルケーム(フランスの社会学者)は自殺を以下の4つに類型化している

I—集団本位的自殺

→集団に対する献身、自己犠牲の観念から生ずる。殉死などがこれにあたる。

II—自己本位的自殺

→個人と共同体の結びつきが弱いことから生ずる(既婚者の方が未婚者より自殺率が低い)。

III—アノミー的自殺

→社会的規制・規範が無い状態で自らの欲望に歯止めが効かなくなり、実現できないことに幻滅し虚無感を抱き自殺へ至るもの。

IV—宿命的自殺

→悲劇的な状況に陥ってしまった人、あるいは長期的な希望が閉ざされたことから生ずる

5…自殺の原因

健康問題

- ・男女比 3 : 5
- ・うつ病など「病気の悩み」が 4 割を占める
- ・無職者の最大の自殺理由である

経済問題

- ・男女比 37 : 1
- ・景気の悪化に比例して増加しやすい(失業率と自殺率も一定の連動性が見られる)
- ・98 年より割合が格段に上昇。有職者の最大の自殺理由である

家庭問題

- ・男女比 10 : 13
- ・DV や家族関係、子育ての悩みなどがこれに該当する

勤務問題

- ・男女比 4 : 1
- ・労働災害による自殺など

	家庭問題	健康問題	経済生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳	合計
昭和53年	2,239	12,506	1,703	855	1,250	361	1,179	695	20,788
昭和54年	2,234	13,307	1,577	862	1,184	366	1,266	707	21,503
昭和55年	2,221	12,818	1,820	919	1,039	248	1,206	777	21,048
昭和56年	2,181	12,288	2,019	905	888	231	1,163	759	20,434
昭和57年	2,326	12,488	2,377	901	950	259	1,139	788	21,228
昭和58年	2,547	14,256	3,651	1,153	981	271	1,414	929	25,202
昭和59年	2,452	14,091	3,458	1,201	922	220	1,395	857	24,596
昭和60年	2,411	14,100	2,684	1,148	833	237	1,389	797	23,599
昭和61年	2,509	15,375	2,759	1,287	860	307	1,525	902	25,524
昭和62年	2,325	15,264	2,283	1,258	787	213	1,460	870	24,460
昭和63年	2,213	15,327	1,842	1,166	723	258	1,259	954	23,742
平成元年	2,000	14,836	1,396	1,099	635	241	1,263	964	22,436
平成2年	1,888	14,269	1,272	1,032	610	215	1,185	895	21,346
平成3年	1,873	13,666	1,660	992	549	193	1,180	971	21,064
平成4年	1,885	13,912	2,062	1,066	612	196	1,249	1,122	22,104
平成5年	1,961	13,006	2,484	1,046	561	200	1,210	1,383	21,851
平成6年	1,956	12,543	2,418	1,195	558	254	1,286	1,469	21,679
平成7年	2,008	12,798	2,793	1,217	560	231	1,328	1,510	22,445
平成8年	2,027	13,044	3,025	1,257	506	208	1,408	1,629	23,104
平成9年	2,104	13,659	3,556	1,230	631	203	1,395	1,613	24,391
平成10年	2,924	16,769	6,058	1,877	796	279	1,942	2,218	32,863
平成11年	2,794	16,330	6,758	1,824	819	237	1,862	2,424	33,048
平成12年	2,771	15,539	6,838	1,781	745	241	1,720	2,322	31,957
平成13年	2,668	15,131	6,845	1,756	743	227	1,542	2,130	31,042
平成14年	2,746	14,815	7,940	1,764	732	202	1,536	2,408	32,143
平成15年	2,928	15,416	8,897	1,878	735	237	1,765	2,571	34,427
平成16年	2,992	14,786	7,947	1,772	773	214	1,554	2,287	32,325
平成17年	3,019	15,014	7,756	1,807	809	233	1,687	2,227	32,552

原因・動機別・年齢別自殺者数(遺書ありのみ)(2003年)

		合計	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	不詳
計	人	10,387	157	886	1,284	1,738	2,976	3,334	12
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
家庭問題	%	9.3	8.9	7.4	10.7	10.5	7.6	10.4	8.3
健康問題	%	37.5	22.3	29.2	29.0	23.5	30.5	57.2	0.0
経済・生活問題	%	35.2	4.5	19.6	33.7	48.7	47.7	23.2	0.0
勤務問題	%	5.9	0.0	9.9	10.8	8.3	6.6	1.5	0.0
男女問題	%	2.8	17.2	12.8	5.8	2.1	1.1	0.1	0.0
学校問題	%	0.6	24.8	2.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
その他	%	5.8	13.4	12.2	6.2	4.7	4.3	5.6	8.3
不詳	%	2.9	8.9	6.3	3.7	2.2	2.2	2.0	83.3

6…関連概念・語句

過労死

厚生労働省によれば過労死とは、

過度な労働負担が誘因となって、高血圧や動脈硬化などの基礎疾患が悪化し、脳血管疾患や虚血性心疾患、急性心不全などを発症し、永久的労働不能または死に至った状態のこと。申請しても認定されるのはその半分程度である。類義語に**過労自殺**がある。

安楽死

患者が堪え難い苦痛を得ている際などに、医師の判断でその死期を早めさせること。日本においては認められておらず、行えば殺人罪の対象となる。昭和 37 年の判例においては、安楽死を認めるには以下の 6 つの要件が必要であるという。

- 1 死期が切迫していること
- 2 耐え難い肉体的苦痛が存在すること
- 3 苦痛の除去・緩和が目的であること
- 4 患者が意思表示していること
- 5 医師が行うこと
- 6 倫理的妥当な方法で行われること

安楽死を法的に認めているオランダでは以下の 5 つの要件を必要としている。

- 1 本人の自発的で真摯な継続した意思。
- 2 耐え難い苦痛(神経的苦痛を含む)
- 3 治癒の見込みがない
- 4 医師が第三者の医師と相談
- 5 医師が事後届け出る

自己決定権

自分の人生を自分で自由に決定する権利。日本人に対してこれを認める場合、日本国憲法 13 条の幸福追求権から類推してその根拠を求めることになる。

自傷行為

文字通り自らを傷付けること。リストカットが代表格か。必ずしも自殺を主眼に据えて行うものではないが、自傷行為を行う人は何らかの精神疾患を抱えていることが多い。主に自傷行為を行うのは「自己に批判的」「自尊感情が低い」「コミュニケーション能力が欠如」「いつもぼんやりとしている」人が多いらしい。

殺人

人間の生命を絶つこと。他人に対して故意にこれを行うと殺人罪として検挙される。

同意殺人

被害者の許可を得て、又は被害者の以来により行われる殺人のこと。通常の殺人罪よりも違法性は低いとされるため刑は軽くなる。

自殺関与

自殺を唆す自殺教唆や自殺を助ける自殺幫助がこれにあたる。自殺そのものは未遂でも刑事責任は問われないが、上記の2つのどちらかを行ったものは法に照らして処罰される。自殺そのものが処罰の対象とならないのに関与が罪となるのは、自殺を違法とする立場の場合は関与者を共犯として捉え、違法としない場合は、自己の生命を処理する自由のある他人の意思決定を侵害したと考えることによる。

7…自殺対策

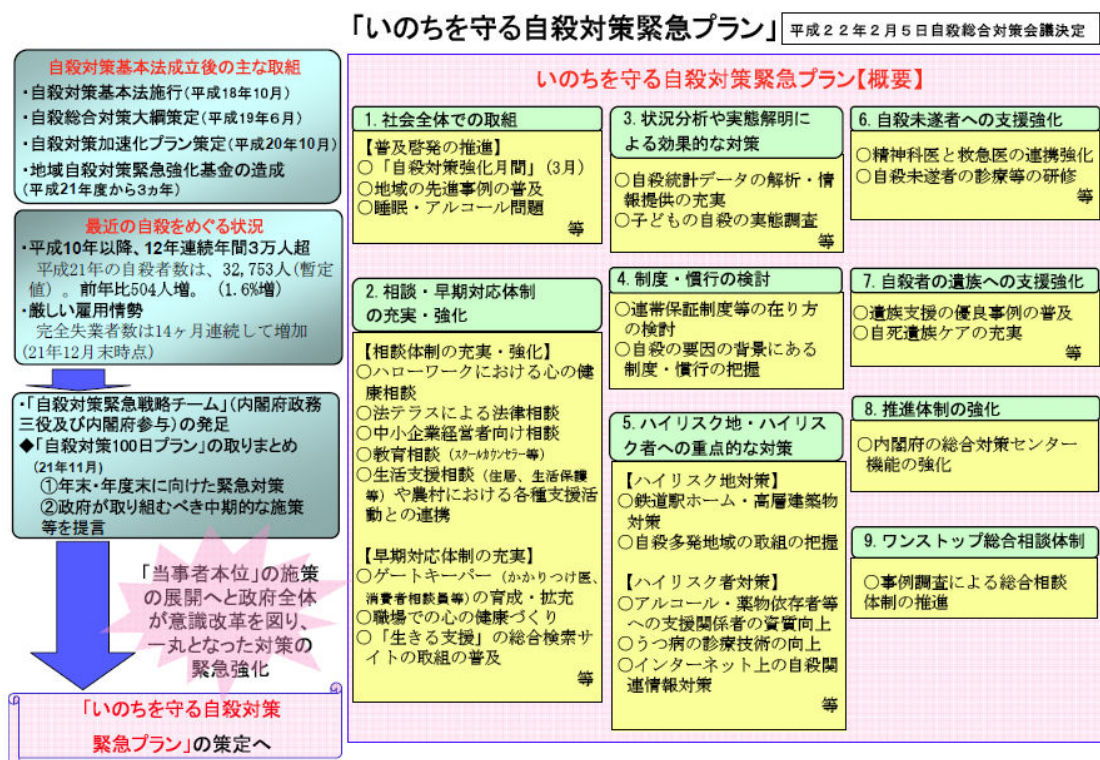
自殺対策基本法

2006年6月に公布され同年10月28日より施行。参議院の「自殺防止対策を考える議員有志の会」により出された議員立法。総則、基本的施策、自殺総合対策会議の3条から成る。

- ①自殺には様々な社会的要因が関係しており、社会的な取り組みが必要であること
- ②自殺は多様かつ複合的な要因から生じるものであり、精神保健の観点のみならず、その実態に即した取り組みが必要があること
- ③自殺の予防、危機的状況への対応、発生後、未遂時など各段階に応じた対策が必要であること
- ④行政、医療機関、事業主、学校、民間団体等の密接な連携が必要であることが述べられている

自殺総合対策大綱

自殺総合対策会議(内閣府の下に設置された自殺対策の専門機関。自殺対策基本法の施行に伴い設置)で自殺者対策の指針として設置されたもの。2016年までに2005年比で自殺率を20%減らすことを掲げている。ほか、現在に至るまで「自殺対策加速化プラン」、3月の自殺が多いことに鑑みた「自殺対策100日プラン」、「いのちを守る自殺対策緊急プラン」などの指針が同会議より出されている。



秋田県の取り組み

1 情報提供・啓発

- 全戸に自殺予防パンフレットを配布
- 命の尊さを考えるシンポジウムを開催

2 相談体制の充実

- 自殺予防の窓口として「ふきのとうホットライン」を設立
- あきたいのちのケアセンター(遺族や自殺未遂者の支援の場)の設置

3 うつ病対策

- 一般臨床科医及び看護しに対するうつ病研修(秋田県医師会に委託)
- 県広報誌を用いた県民への継続的な啓発
- うつ講座&うつ教室の開催(保健所にて)

4 予防事業

- 遺族ケア研修会の実施
- ラジオ、15秒CMを用いたキャンペーン

これらの取り組みにより 2003年より自殺者減少の傾向に入った

8…世界の自殺事情

- ・世界単位では30秒に1人が自殺
- ・1日では3000人死亡
- ・毎年で約100万人死亡
- ・2020年には150万人にのぼるとされている

アメリカ

- ・自殺率は**11.1**
- ・年齢を問わず銃による自殺が多い
- ・10代後半から20代前半若者の自殺が多く、事故、殺人に次いで死因の第3位に位置している

中国

- ・自殺率は**13.9**
- ・女性の自殺率が男性より高い
- ・農村での自殺率が都市の3倍
- ・若年層(15歳~34歳)の最大の死因は自殺
- ・自殺の要因については「婚姻と恋愛」がトップ。次いで「生活や就職」「病気」

韓国

- ・自殺率は**31.0**
- ・日本と同様に近年自殺者が急増の傾向にある
- ・死亡原因の4位が自殺
- ・自殺理由は精神的問題が1位。次いで「経済的問題」「家庭問題」
- ・元大統領(盧武鉉)が自殺している

ロシア

- ・自殺率は **23.5**
- ・男性の自殺率が女性の 6 倍近い
- ・男性の平均寿命が異様に短い(58.4 歳)
- ・国柄か男性の自殺の原因の 1 位はアルコールである

フィンランド

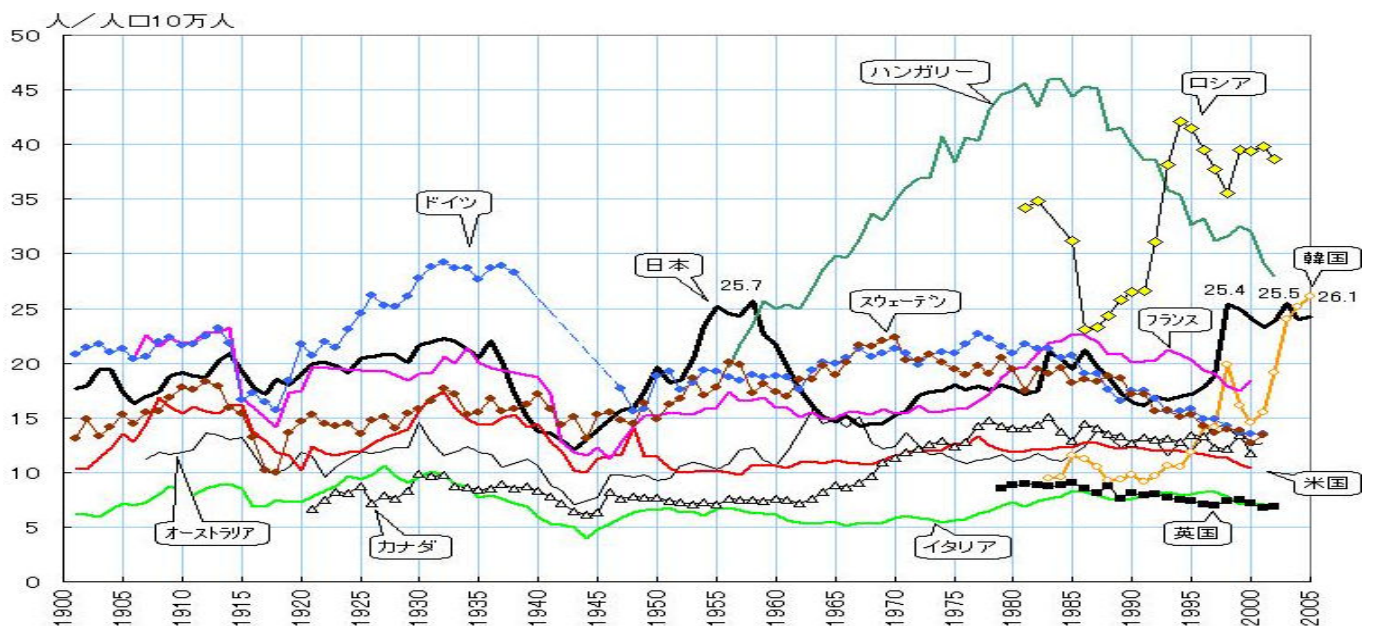
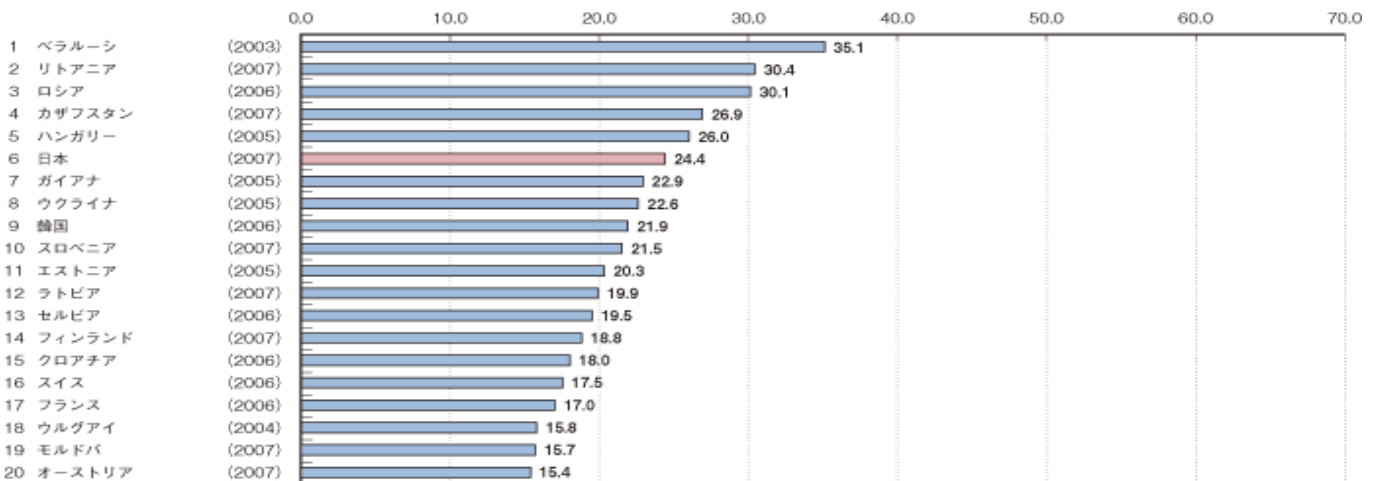
- ・自殺率は **20.1**
- ・86 年から 92 年まで、学校・病院・社会福祉機関・軍隊・教会といった各界各層から 5 万人の専門家を動員し、自殺者に対する心理学的解剖を実施

→自殺者の 3 人に 2 人がうつ病を患っていたことが判明

→保健所や病院に通う精神科以外の一般外来患者にもうつ病検査を実施

→早期発見を可能に

- ・90 年まで自殺率は右肩上がりだったが、87 年の自殺者の家族全員に対する調査による要因の洗い出しを踏まえて、未遂者への公的ケア、アルコール過剰摂取防止、マスコミの報道規制などの政策により大幅に低下



9…自殺と倫理

宗教別自殺観

I—仏教

→殺生を罪とするので自殺は禁則とも言える

→しかし“捨身虎飼”のように自己犠牲を良しとした話もある

→自殺をすることは輪廻転生の放棄に繋がり苦しみの中に留まることになるとも言われている

→釈迦の教えによると「死ねばもっと恐ろしい苦しみの世界へ入っていかねばならない」「その苦しみはこの世のどんな苦しみよりも深くて大きい苦しみ」だそうである

→明確に自殺を否定してはいない

II—キリスト教

→キリスト教信者は人間である

→人間の命(身体)は、神から与えられたもので、勝手に傷つけたりすることは神への冒瀆である

→キリスト教を信じないものは人間ではない(人間ならば、キリスト教を信じられる様にしなければならない)

→人間でなければ(動物は)人間のために神が与えたものだからどのようにしても良い

→キリスト教信者は隣人を愛さねばならない。自殺は最も近い隣人(家族)を悲しませてしまう

III—イスラム教

→私たちの身体は個人の所有物ではなく、アッラーからの預かり物である

→自分自身を殺すことは、預かっているものに対する裏切りを意味する

→体の一部分を切ったり、害を与えたりすることも許されていない

→預言者も自殺をした者の葬儀の礼拝は行わなかったといわれる

→「あなた方自身を、殺し(たり害し)てはならない」と明言で禁じている

→自殺をした者は、何を使ってどのように自殺しようと、「地獄においてひたすら罰を与えられ永遠に拘留される」とされている

自殺肯定論

・自殺は「愚行権」(判断能力のある人間は自分に不利益と思われる行為だとしてもそれをする事が許されるとする)の範疇である

・命はそこまで尊いものではない

・利害で言うなら長く生きて苦しむよりすぐに死んだ方が害が少ない

・「生きていればいいことがある」などというのは無根拠な詭弁である

・自分が生きることが周囲にとって害であるなら自ら死を選んだ方が社会にとって益となる

・自殺否定論は観念的な話であって経済的事由による自殺を止めるに至らない

・死の苦しみは本人が承知の上で行っているのだから他者にそれを止める権利は無い

・自殺は自己中心的な行動と言われるが、元来人は自己のためにのみ行動するものである

・社会は勝者と敗者を必ず生じさせるもので、生きる利の少ない敗者の自殺は認められるべきだ

・自殺の要因は社会にあるが、結局は個人の問題に終始するものである

・社会保障費が減らせて財政に優しい

・CO2排出削減で環境に優しい

・葬儀屋が儲かる

※検索エンジンに「しに」と入力するとまず一番に「しにたい」が表示される

自殺について肯定か否定の立場
をとる



肯定なら自殺推進、否定なら自
殺抑止策を考える



社会全体として「自殺」への接
し方を定める

よき議論を期待する